

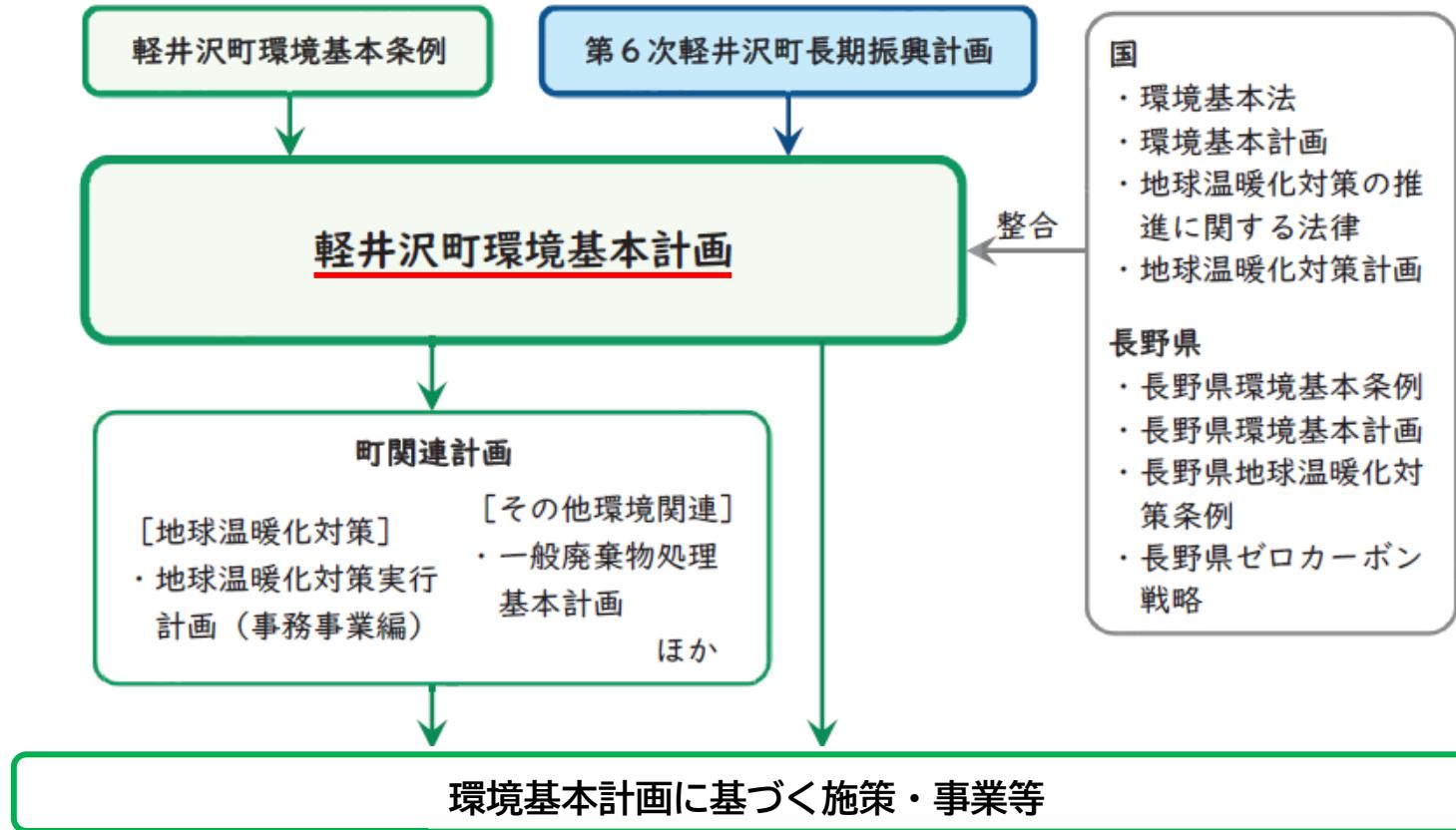
軽井沢町環境基本計画 概要

令和5年度(2023) 策定

基本的事項

◆位置づけ

環境基本計画は、環境基本法第36条に該当する計画であり、環境の保全及び創造のための総合的・長期的な施策を推進することを目的とした環境分野のマスター プラン



基本的事項

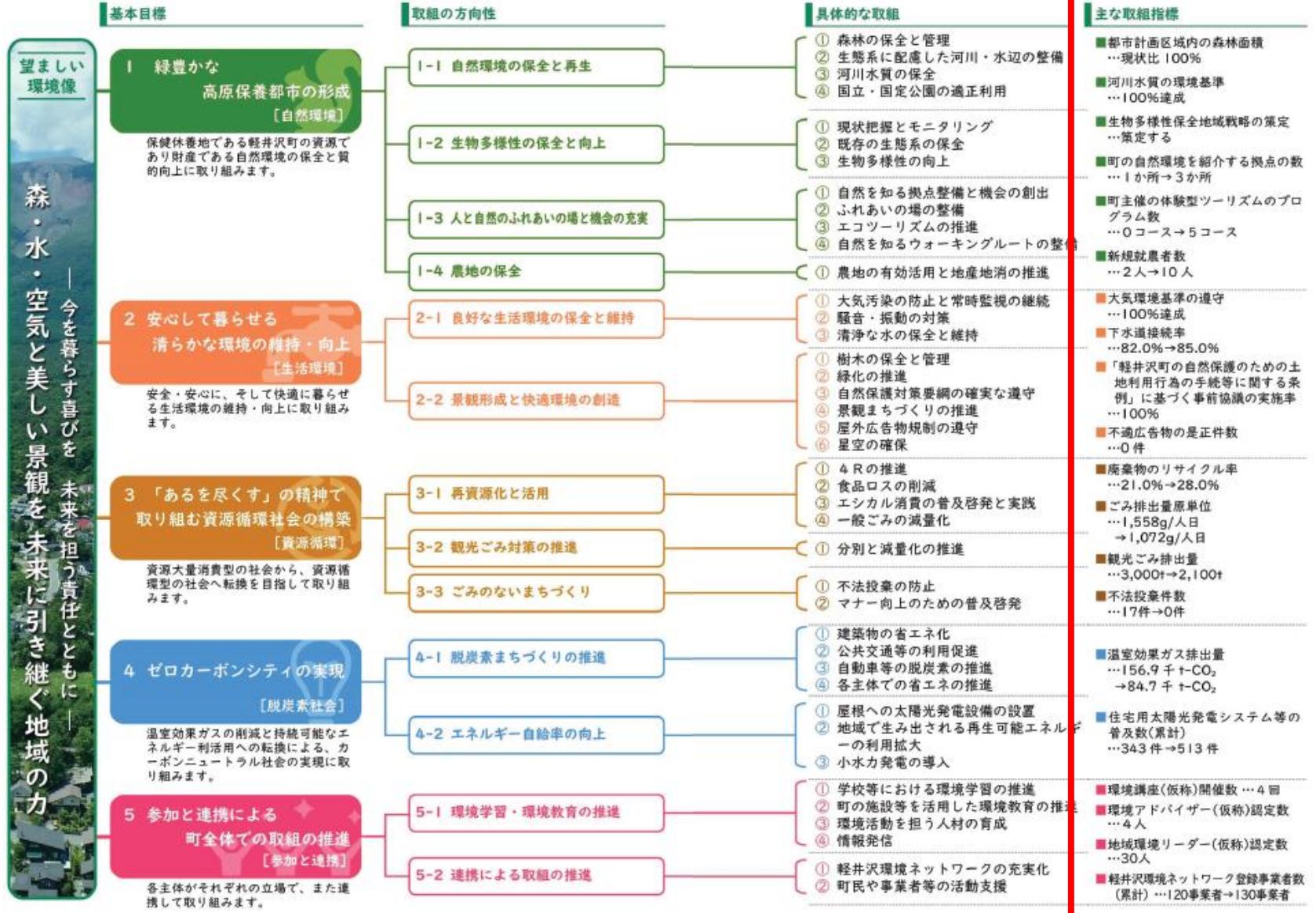
◆計画期間

令和6年度(2024)から令和15年度(2033)までの10年間の計画
5年目となる令和10年度(2028)に中間見直しを行う



取組の体系

1 取組の体系



主な取組指標

主な取組指標

達成度をはかる指標

基本目標	指 標	単位	基準値	目標値
			2020年	2027年 ^{*1}
1 緑豊かな高原保養都市の形成	都市計画区域内の森林面積	%	100.0	100.0
	森林經營管理制度に係る集積計画策定面積⑥	ha	0	20
	河川水質の監視	—	継続	継続
	河川水質の環境基準	%	100	100
	生物多様性保全地域戦略の策定	—	—	策定
	ニホンジカの捕獲頭数⑥	頭	753	770
	外来生物（アライグマ・ハクビシン等）捕獲頭数⑥	頭	34	35
	クマによる人身被害件数	件	0	0
	軽井沢町の自然環境を紹介する拠点の整備	か所	1	3
	町主催の体験型ツーリズムのプログラム数⑥	コース	0	5
	新規就農者数⑥	人	2	10
	大気環境基準の遵守	%	100.0	100.0
2 安心して暮らせる清らかな環境の維持・向上	騒音に係る公害苦情処理件数	件	3	0
	下水道接続率⑥	%	82.0	85.0
	グリーンインフラ導入件数⑥	件	—	2
	「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手続等に関する条例」に基づく事前協議の実施率	%	100.0 (146/146) ^{*2}	100.0 (x/x)
	無電柱化実施件数⑥	件	—	2
	のぼり旗、電光掲示板等の不適広告物の是正件数⑥	件	18	0
	廃棄物のリサイクル率⑥	%	21.0	28.0
3 「あるを尽くす」の精神で取り組む資源循環社会の構築	ごみ排出量[廃]	トン	11,556 (2017)	8,232 (2028)
	ごみ排出量原単位[廃]	g/人日	1,558 (2017)	1,072 (2028)
	観光ごみ排出量（推計値）	トン	3,000	2,100
	不法投棄件数	件	17	0

基本目標	指 標	単位	基準値	目標値
			2020年	2027年 ^{*1}
4 ゼロカーボンシティの実現	環境配慮型住宅普及数（累計）⑥	件	—	120
	しなの鉄道町内3駅利用客数⑥	万人	177 (2019)	180
	町内循環バス乗降客数⑥	人	94,946 (2019)	105,000
	水素ステーション設置数⑥	か所	—	1
	E V用急速充電器設置数(累計)⑥	か所	2	8
	E V等普及率	%	—	64
	かんきょう家計簿取組世帯数	世帯	6	100
	環境ネットワーク CO ₂ 排出量報告事業者数	事業者	52 (2019)	100
	CO ₂ 排出量	千トン -CO ₂	156.9 (2013)	84.7 (2030)
	住宅用太陽光発電システム等の普及数（累計）	件	343	513
	ペレットストーブ等補助金交付台数⑥	台	3	6
	環境講座（仮称）開催数	回	—	4
5 参加と連携による町全体での取組の推進	環境アドバイザー（仮称）認定数（累計）	人	—	4
	地域環境リーダー（仮称）認定数（累計）	人	—	30
	軽井沢環境ネットワーク登録事業者数（累計）	事業者	120 (2022)	130
	地域との協働による特定外来生物（植物）の駆除活動⑥	回	0	6
	アダプトプログラムによる公園・緑地等の美化推進団体数・か所数⑥	団体	3	6
		か所	3	6

軽井沢町環境基本計画
令和6年度評価結果

参考3-B

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で出された主な意見
1 緑豊かな高原保養都市の形成												
1	都市計画区域内の森林面積	森林の保全のため、都市計画区域内の森林面積を基準年の令和2年度から減少させない。	100	98	100	%	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	都市計画区域内の民有林の面積が減少した。 指標の数値としては反映されないが、区域内における樹木の伐採および植栽に関する指導を徹底する。	自然保護対策係	特になし
2	森林経営管理制度の係る集積計画策定面積⑥	森林の保全と管理のため、「軽井沢町森林整備計画書」並びに「軽井沢町森林管理制度実施方針」に基づき、集積計画を策定し森林整備を推進する。	0	0 意向調査中	20	ha	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	経営管理権集積計画策定に向けて、森林計画の対象地となる森林所有者に森林経営管理制度の利用意向調査を実施している。令和7年度中に意向調査は終了する予定である。	農林振興係	特になし
3	河川水質の監視	河川の水質保全のため、水質調査を継続し、異常が生じた場合に迅速に対応する。	継続	継続	継続	—	年	継続中	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	町職員による巡回に加え、年4回実施している河川の水質検査の際に委託業者に巡回を行うよう依頼している。巡回の際に、水質の異常や不法投棄が無いか確認を行っている（不法投棄は水質事故の原因となりうる）。また、毎年1月に長野県水大気環境課と千曲川流域の各自治体との間で、水質事故の発生を想定した情報伝達訓練を実施し、有事の情報伝達体制の確認を行っている。	衛生係	特になし
4	河川水質の環境基準	河川の水質保全のため、河川水質を環境基準値未満に保つ。	100	100	100	%	年	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	町内の13地点で、年4回（6月、9月、12月、3月）の水質検査を実施している。環境基準値を超過した場所があれば、その原因を調査する。これまで、同じ地点において1年以上連続して基準値を超過したケースはない。	衛生係	特になし
5	生物多様性保全地域戦略の策定	町内の生態系の保全のため、「生物多様性保全地域戦略」を策定する。	—	策定に向けて情報収集を実施	策定	—	—	進行中	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	ここで掲げている「生物多様性保全地域戦略」とは、生物多様性基本法第13条の「生物多様性地域戦略」に該当する、地域の生物多様性の保全および持続的な利用に関する計画のことである。令和10年度の策定に向けて、資料集めやすく述べて策定している自治体で実施された説明会等に参加するなど、準備を進めている。	環境政策係	特になし
6	ニホンジカの捕獲頭数⑥	ニホンジカによる農作物被害、植生への影響等を軽減するため、ニホンジカの捕獲を実施する。	753	437	770	頭	年	57%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	ニホンジカは獵友会で捕獲を行っているが、多数捕獲をしていた会員が退会等したため、捕獲数が減少した。しかし、令和6年に4名の若い会員が加入したので、今後積極的な捕獲活動が期待できる。なお、獵友会員は30名おり、年齢の分布は、20～30代 1名、30～40代 7名、40～50代 10名、50～60代 4名、60～70代 2名、70～80代 4名、80～90代 2名である。 また、ワナに対して警戒心の強いシカが増えていることや、シカによる植生への影響もみられることから、環境省、県に対して高地捕獲ならびに浅間広域、近隣市町村との捕獲連携をして進めていく。	野生鳥獣対策係	どのような捕獲方法が今1番多く行われているのか。 →くくり罠
7	外来生物（アライグマ・ハクビシン等）捕獲頭数⑥	生物多様性の保全のため、外来生物の捕獲を実施する。	34	22	35	頭	年	63%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	特にアライグマに関しては、これまでの捕獲の成果による個体数密度の低下がみられた。一方で、この密度低下によって捕獲の難易度が上がり、捕獲数は減少した。町内各所で外来生物による建物侵入などの被害が見受けられるため、今後も獵友会やNPO法人による捕獲を進みたい。	野生鳥獣対策係	特になし

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で出された主な意見
8	クマによる人身被害件数	人とクマが安全にすみ分けることをを目指し、ベアドックによる追い払い等を実施し、クマによる人身事故ゼロを目指す。	0	1	0	件	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	令和6年10月に三ツ石区北側の国有林内で、作業中の方がクマと遭遇し負傷した事故が発生した。国有林内のクマ生息域での作業であったが、受傷者はクマ対策を行わずに作業に従事していた。町からの管理元、委託元の森林管理署に対するクマに関する情報共有、注意喚起を引き続き行い、事故の発生防止に努める。 なお、住宅区域では、15年以上、クマによる人身被害は発生していない。今後も、クマに関する注意喚起等の啓発に努める。また、クマの出没情報、その配信情報の周知のため、町ホームページおよび県による情報配信ツールの活用および普及を進める。	野生鳥獣対策係	町外に出ていったクマは追跡しないのか。 →追跡調査はしていない。 クマは捕獲しないで、逃がすかたちになっているのか。 →人が居住するエリアに出てきて、捕獲されたクマは駆除となる。 発信機をついているクマは増えているのか。 →ほぼ横ばいに近い。
9	軽井沢町の自然環境を紹介する拠点の整備	自然を知る拠点整備と機会の創出のため、軽井沢町の自然環境について知る拠点として、町の施設等を整備・活用する。	1	1	3	か所	累計	33%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	軽井沢町の自然環境を紹介する拠点として、軽井沢町植物園がある。植物園では、軽井沢町の植物について実物および展示を通して紹介している。今後は、町内の散策路や空きスペースなどの拠点となりうる候補地の検討を進め、拠点の整備を進める。	環境政策係	特になし
10	体験型ツーリズムのプログラム数⑥	エコツーリズムを推進するため、事業者と連携してエコツーリズムのプログラムを提供する。	0	10	5	コース(プログラム数)	年	達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	「エコツーリズム推進法」の趣旨に準拠した、自然観光資源及び歴史的財産の活用と保護に向けたツアーを令和6年度に10プログラム実施した。さらに、それらのプログラムのガイド講習を毎年行っている。新たなツアープログラムの造成については、軽井沢エコツーリズム推進協議会の中で協議中である。さらに、宿泊を伴う滞在型の商品ツアー造成に向け、宿泊施設等と一緒に連携を図り、民間主導型プログラムの推進を今後もさらに進めしていく。	観光商工係	ガイドの育成として、軽井沢町でどのようなことを行っているのか。 →軽井沢観光協会が中心となって、ガイド育成を実施している。
11	新規就農者数⑥	農地の保全につながる取組を進める。	2	3	10	人	累計	30%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	新規就農者数は、令和5年度に1名、令和6年度が0名であり、基準年から1名増加した。また、令和9年度に1名が新規就農開始予定である。また、新規就農を目指す者の受け皿となる「里親農家」は、令和7年度より2名増え4名となっており、新規就農希望者の受け入れ態勢の整備を進めている。	農林振興係	特になし

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で 出された主な意見
2 安心して暮らせる清らかな環境の維持・向上												
12	大気環境基準の遵守	大気汚染の防止のため、県等が実施する大気観測に協力し、その結果の公表に努める。	100	100	100	%	年	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	大気環境基準は遵守されており、令和6年度は注意報の発出はなかった。 毎年4月には、長野県の関係課と地域振興局、保健所、各自治体などの関係機関により、光化学オキシダントやPM2.5の注意報の発令を想定した情報伝達訓練を実施し、情報伝達体制の確認を行っている。	衛生係	特になし
13	騒音に係る公害苦情処理件数	良好な生活環境の保全と維持のため、騒音・振動の防止と啓発を行う。	3	5	0	件	年	未達成	<input type="checkbox"/> 進捗している <input checked="" type="checkbox"/> 進捗していない	建築工事などに伴う作業音や振動による苦情が増加傾向にある。 騒音規制法に基づいた規制の設定など、今後の状況を注視しながら必要に応じて検討を進めること。	衛生係	特になし
14	下水道接続率⑥	清浄な水の保全と維持のため、上下水道施設の整備及び維持管理を適切に行う。	82	79	85	%	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	古宿地区の下水道整備工事により公共樹の数が増加したことと、接続率が下がったが、下水道施設見学会の開催などにより下水道への理解を高め、接続促進を図っていく。	下水道 施設係	町内の一番古い上下水道は何年ぐらい経っているのか。それに対して町はどのような対策をとっているのか。 →一番古い上下水道管は77年経過しており、令和8年度に布設替えを計画している。下水道管渠は昭和63年から整備を開始し、供用開始は平成5年となっている。令和3年度より劣化調査を目的とし、管渠テレビカメラ調査を実施している。
15	グリーンインフラ導入件数⑥	緑化の推進のため、グリーンインフラの導入を検討する。	—	0	2	件	年	準備中	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	平成12年度に策定した「軽井沢町緑の基本計画」を令和7、8年度で更新を行っていくが、そのなかでグリーンインフラの取組を位置付け、導入を進めていく予定である。	景観 まちなみ係	特になし
16	「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手続等に関する条例」に基づく事前協議の実施率	自然環境およびそれにより形成される景観を保護するため、「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手続き等に関する条例」に基づく事前協議を実施する。	100 (146/146)	100 (178/178)	100 (×/×)	%	年	100%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手続等に関する条例」に基づく事前協議は、自然保護対策要綱が遵守されたことで、すべての協議が完了した。	自然保護 対策係	特になし
17	無電柱化実施件数⑥	景観に配慮したまちづくりの推進のため、電柱・電線類の地中化を推進する。	—	0	2	件	累計	進行中	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	町道鶴溜線の無電柱化を令和7年から令和11年に実施予定である。また、無電柱化推進計画を令和8年度に策定予定である。	道路河川係	毎年計画的にやっていくのか。それとも、地区等の希望によって決まっていくものなのか。 →来年度計画策定を予定しており、そのなかでどこを優先的にやるのかなどを整理していく。
18	のぼり旗、電光掲示板等の不適広告物のは正件数⑥	屋外広告物条例と軽井沢町の自然保護対策要綱に基づき、屋外広告物の規制の遵守を啓発をする。	9	9	0	件	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	のぼり旗の掲示については、すべて是正されている。今後についても遵守されないのぼり旗についての是正を図る。 また、「軽井沢町の自然保護のための土地利用行為の手続等に関する条例」による手続きの際に周知する他、屋外広告物周知期間に軽井沢町の自然保護対策要綱の規定を守らないのぼり旗の是正を図るために巡回パトロールを実施する。	自然保護 対策係 (令和7年度 報告から 景観まちなみ 係)	最近ののぼり旗の状況は。 →令和7年度は1例対応した。指導により是正が図られた。 建物内ののぼり旗はよいのか。 →建物内はよい。

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で 出された主な意見
3 「あるを尽くす」の精神で取り組む資源循環社会の構築												
19	廃棄物のリサイクル率⑥	資源循環社会の構築のため、リサイクルの推進を進める。	21	22	28	%	年	79%	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	浅麓汚泥再生処理センターへ搬入され、堆肥等にリサイクル処理される事業系生ごみが増加していることなどからリサイクル率は上昇傾向にある。事業系生ごみのほか、その他のごみについても分別の徹底を呼びかけるなど、更なるリサイクル率の向上を図る。	衛生係	特になし
20	ごみ排出量[廃]	ごみの分別の見直しや啓発を行い、ごみ排出量を削減する。	11,556 (2017)	12,689	8,232 (2028)	トン	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	全体量は増加傾向にある。人口や事業所、町内滞在人口の増加が理由として考えられる。ごみの減量化、資源化を推進し全体量の減少につなげるため、ホームページや広報を活用した情報発信や、生ごみ処理機の購入費用の補助制度などを継続して行う。	衛生係	町内に通勤している人が、町外からのゴミを捨てているというのを聞くので、よい対策があるといいと思う。 →地域的な実情もあって、難しいところがある。
21	ごみ排出量原単位[廃]	ごみの減量化のため、ひとりあたりのごみの排出量を減らす取組を進める。	1,558 (2017)	1,603	1,072 (2028)	g/人日	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	ごみ排出量原単位は増加傾向にある。事業所数、町内滞在人口が増加傾向にあるため、ごみ排出量を人口で割って算出する原単位も増加していると考えられる。ごみの減量化、資源化を推進し、ごみ排出の全体量の削減につなげるため、ホームページや広報を活用した情報発信や、生ごみ処理機の購入費用の補助制度などを継続して行う。	衛生係	特になし
22	観光ごみ排出量（推計値）	資源循環社会の構築のため、観光ごみの分別と減量化を推進する。	3,000	—	2,100	トン	年	—	—	観光ごみの算出には県内の各市町村の行政人口、観光入込客数、ごみ排出量の数値が必要になるが、令和6年度のごみ排出量の統計が公表されてないため算出ができなかった。	衛生係	観光ごみを減らすための目玉事業はあるのか。 →問題意識は持っているが、抜本的な解決策はみつけられていない。今後、検討していく。
23	不法投棄件数	ごみのないまちを目指し、啓発や不法投棄された廃棄物の回収等の不法投棄対策を実施する。	17	7	0	件	年	未達成	<input checked="" type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	減少している。 現在行っている不法投棄禁止看板の作成と配布などの啓発活動を、引き続き実施する。	衛生係	特になし

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で出された主な意見
4 ゼロカーボンシティの実現												
24	環境配慮型住宅普及数（累計）⑥	町内における建築物の省エネ化の推進のため、環境に配慮した新築住宅等への補助金を交付する。	—	15	120	件	累計	13%	□ 進捗している □ 進捗していない	町で実施している環境に配慮した新築住宅等への補助金には、毎年コンスタントに申請があることから、着実に認知度が向上しているといえる。引き続き、補助金制度について周知し、環境配慮型住宅の普及数の増加に努める。	環境政策係	特になし
25	しなの鉄道町内3駅利用客数⑥	公共交通の利便性の向上を図り、公共交通の利用者を増やす。	177 (2019)	181 (2024)	180	万人	年	達成	□ 進捗している □ 進捗していない	令和6年度は目標値を超えた。 しなの鉄道の利用促進を図るため、軽井沢町、御代田町、小諸市の三市町で増便事業を実施した。軽井沢～小諸間の上下線計8便を増便し、移動手段の確保と利便性向上に寄与している。三市町による増便事業は3年ごとに協定の見直しを行っており、令和8年度以降の継続実施に向けて協議を行っている。増便事業の他、公共交通の積極的な利用を促すパーク＆レールライドを推進している。	交通政策係	特になし
26	町内循環バス乗降客数⑥	公共交通の利便性の向上を図り、公共交通の利用者を増やす。	94,946 (2019)	144,922 (2024)	105,000	人	年	達成	□ 進捗している □ 進捗していない	運賃が100円と利用しやすい環境や、観光需要の高まりもあり、過去最多の乗降客数となり、目標値を大きく上回った。今後は、バスの時刻、経路、バス停位置情報のGTFSデータの整備を進め、経路検索の充実化を図り、利便性向上に努める。	交通政策係	特になし
27	水素ステーション設置数⑥	脱炭素まちづくりの推進のため、水素ステーションの設置を検討する。	—	0	1	か所	累計	検討中	□ 進捗している □ 進捗していない	町内のみでは需要が少なく、費用対効果の観点から継続の検討事項となっている。水素の普及は、ゼロカーボン達成に向けた手段の一つと位置づけ、県内や国内の動向、技術開発等を注視していく。	環境政策係	特になし
28	EV用急速充電器設置数（累計）⑥	自動車等の脱炭素推進のため、公共施設においてEV向けの充電施設の拡充を図る。	1	3	8	か所	累計	38%	□ 進捗している □ 進捗していない	町の施設として、現在3か所で稼働している（令和2年度より2か所増加）。令和8年4月頃に旧軽井沢駐車場に1台を設置する予定がある。引き続き、新規設置の検討を進めている。	環境政策係	特になし
29	EV等普及率	自動車等の脱炭素推進のため、EV等の二酸化炭素を排出しない車種を普及する。	—	—	64	%	年	—	—	町内でのEV等の普及率（台数）については、令和6年度において調査することができなかつた。町内のEV等の新車台数の普及状況のひとつ参考となりうる「軽井沢町電気自動車等普及促進事業補助金」の交付数においては、令和6年度は21件であった。引き続き、広報誌等を通してEV等の普及を推進する。	環境政策係	町の共用車のEV等の割合はどうなっているか。 →プラグインハイブリッド、ハイブリッド、EVを含めた割合は、約28%（65台中18台）。
30	かんきょう家計簿取組世帯数	さまざまな主体において省エネを推進するため、「かんきょう家計簿」の参加家庭拡大を図る。	6	9	100	世帯	年	9%	□ 進捗している □ 進捗していない	令和8年度より、エネルギー使用量を入力することでCO2の排出量が自動計算されるアプリを導入予定である。利便性を高めることで、利用者を増やすことを目指す。より多くの人に利用してもらうために、HPや広報等でアプリの存在を周知することに努め、町内のエコ意識の向上を図る。	環境政策係	特になし
31	C0 ₂ 排出量	脱炭素まちづくりの推進のため、温室効果ガス排出量を削減する。	156.9 (2013)	144 (2022)	84.7 (2030)	千トン -CO ₂	年	進行中	□ 進捗している □ 進捗していない	2013年度と比べて、業務その他部門（宿泊業・飲食サービス、医療福祉など）で大きな削減がみられた。一方で、廃棄物分野や家庭部門においては増加がみられた。引き続き、産業等での排出削減を進めるとともに、家庭における省エネについての広報などに力を入れていく必要がある。	環境政策係	特になし
32	住宅用太陽光発電システム等の普及数（累計）⑥	温室効果ガス排出量削減に向けた再生可能エネルギーの利用拡大のため、家屋等への太陽光設備の導入を支援する。	343	534	513	件	累計	達成	—	太陽光発電システム等の設置補助金において、目標件数である513件を上回る534件に交付した。令和6年度をもって指標を達成した。	環境政策係	特になし
33	ペレットストーブ等補助金交付台数⑥	再生可能エネルギーの導入拡大のため、ペレットストーブの普及拡大を進める。	3	6	6	台	年	達成	□ 進捗している □ 進捗していない	長野県産材を原料としたペレットを使うことを条件にペレットストーブ設置者に補助金を交付した。SDGsなどの観点から使用者が増え、また補助金も増額になったため交付台数が増えたと思われる。	農林振興係	特になし
34	軽井沢環境ネットワークC0 ₂ 排出量報告事業者数	各主体で省エネを推進していくため、環境ネットワークC02排出量報告事業者数の増加を目指す。	52 (2019)	28	100	事業者	年	28%	□ 進捗している □ 進捗していない	令和6年度において、報告事業者数は減少した。 この状況を改善し、報告事業者数をより増やしていくため、令和7年度より環境ネットワークにポイント制度を導入し、C02排出量を報告することでポイントを獲得できるかたちに変更する。年間のポイント取得上位者は町のホームページで環境配慮事業者として公表することで、参加者にとってメリットとなると想定される。こうした参加事業者にとってメリットのある仕組みに改善していくことで、参加事業者の増加に努める。	環境政策係	特になし

番号	指標	この指標で取り組む内容	基準値 R2	R6	目標値 R9	単位	累計／年	達成率	進捗状況	評価	担当係	環境基本計画見直し検討部会で出された主な意見
5 参加と連携による町全体での取組の推進												
35	軽井沢環境ネットワーク登録事業者数（累計）	環境保全の取組を連携して推進していくため、「軽井沢環境ネットワーク」の登録事業者数の増加と活動の充実化を図る。	120	118	130	事業者	累計	91%	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	目標値達成のため、令和7年度より環境ネットワークにポイント制度を導入し、上位者については町HPで公表する。今後も事業者にメリットのある取組みを検討する。	環境政策係	特になし
36	環境講座（仮称）開催数	環境教育の推進のため、町施設等を活用した講演会等のイベントを実施する。	—	24	4	回	年	達成	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	ニホンジカによる植生への影響をテーマとした大人向けの講演会、植物をテーマとした小学生向け観察会、町内の小学校で様々な環境に関する専門家が授業を担当する軽井沢ゼミ、軽井沢町のクマをテーマとした絵本に関する図書館講座、植物園の植物観察会など、環境に関わるイベントを町主催で多数実施した。今後も継続して実施する。	環境政策係	特になし
37	環境アドバイザー（仮称）認定数（累計）	環境活動を担う人材育成のため、環境の専門家を「環境アドバイザー」（仮称）として認定し、協力を求める。	—	1	4	人	累計	25%	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	令和6年度に植生学専門員を1名認定した。今後も専門家の認定を進め、町の環境に関して助言を求めることのできる体制づくりを進める。	環境政策係	特になし
38	地域環境リーダー（仮称）認定数（累計）	環境活動を担う人材育成のため、環境保全活動や環境学習・教育活動を率先して行っている方々を「地域環境リーダー」として認定し、その活動を支援する。	—	0	30	人	累計	進行中	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	今後の認定に向け、制度設計等を含め準備を進めている。	環境政策係	地域環境リーダーは、小学生や中高生も対象になるのか。 →大人だけでなく、率先して動ける子どもたちをリーダーとして任命できたらと考えている。
39	地域との協働による特定外来生物（植物）の駆除活動⑥	生態系保全のため、町民や事業者等と連携して特定外来植物の駆除を実施する。	0	5	6	回	年	83%	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	現在、地域へ特定外来生物（植物）の説明や周知を図り、駆除を実施している。令和6年度は小学校の児童やマレットゴルフ部部員と協働で地区の特定外来生物（植物）の駆除活動を行った。今後も、特定外来生物（植物）の根絶に向けて周知を図り、駆除活動の取り組みを続ける。	自然保護対策係	特定外来植物について、知らない方が割と多いように思うが、新しい方針などを考えているか。 →目撃情報をいただいたときは、チラシを配って駆除をお願いしている。
40	アダプトプログラムによる公園・緑地等の美化推進団体数・か所数⑥	連携による取組推進のため、住民団体等が実施する環境保全活動を支援する。	3	3	6	団体	累計	50%	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	現在3団体が登録しているが、広報紙等で募集を行い、目標の達成を目指す。	道路補修係	もっとPRをして、地域の中で活動を広げた方がいいと思う。 広報の表紙で皆さんが頑張っている姿を掲載し、募集案内を載せたらいいと思う。
41			3	3	6	か所	累計	50%	<input type="checkbox"/> 進捗している <input type="checkbox"/> 進捗していない	町内の3か所において、下記の通り、アダプトプログラムによる美化清掃活動を行った。 ①ゴミ拾い・トイレ掃除　月2回 ②草刈り　月1回、フン片付け(週5回) ③ゴミ拾い・草刈り等　月1回 他の公園においても、広報紙等により募集を行い、目標を達成する。		